

● 学会報告 ●

ACC: Advancing the Cardiovascular Care of the Oncology Patient

今年度の米国心臓病学会(ACC)腫瘍循環器研修会は、2020年2月14日から16日までの3日間、Heart Houseとして知られるワシントンDCのACC本部および隣接するホテルで開催されました(図)。



(図) ACC腫瘍循環器研修会 <https://www.acc.org/cvoncology>

ACCは心血管疾患に関する教育を主目的として1949年に設立された学会で、現在約52,000名の会員が在籍しています。首都ワシントンDCにあるACC本部は Heart House という愛称で知られており、連邦議会との距離も近いことから、政策の立案や研究の支援にも大きく貢献しています。

2017年に始まったACCの腫瘍循環器研修会ですが、昨年コース・ディレクターのBonnie Ky博士がJACC CardioOncology誌の初代編集長に就任するなど、学会誌、Webサイト、SNS(#ACCCardioOnc, @ACCinTouch)等を通じた情報発信の成果もあり、募集開始とともに定員の約350席が埋まる盛況でした。

研修会の目的は、がん患者およびサバイバーにおける心血管疾患の予防・診断・治療に従事する学際領域のチームに対し、最先端かつ有意義なベスト・プラクティス戦略を提供することです。

主な学習目標は以下の7項目です。

- ・ 最新のがん治療法：有効性・安全性・がん治療関連心血管疾患(CTRCD)について説明できる
- ・ CTRCDの評価法：各種画像診断やバイオマーカーの長所と短所を理解できる
- ・ 診療ガイドライン：CTRCDの予防・診断・治療に必要な診療ガイドラインを概説できる
- ・ ハイリスク患者：心血管リスクを有する患者に対するがん治療を最適化できる
- ・ ハイリスクがん治療：CTRCDリスクを有する治療における短期・中長期の患者管理ができる
- ・ チーム医療：各地域の実情に合わせて学際領域の職種間連携サービスを最適化できる
- ・ 心アミロイドーシス：関連疾患に関する基本的知識を理解できる

コース初日は「循環器医のためのがん薬物療法講座」で、アントラサイクリンからHER2標的療法、チロシンキナーゼ阻害薬、免疫チェックポイント阻害薬、プロテアソーム阻害薬、そしてCAR-T療法まで、がん医療の進歩および顕在化しつつあるCTRCDの概要が示されました。

二日目はまず朝7時からがポスターセッションで、午前中はセッションⅠ「がん患者に対する心血管疾患の診療ガイドライン(予防・診断・治療)」、午後はセッションⅡ「がん治療関連の血管毒性(虚血性心疾患、静脈血栓塞栓症、出血、高血圧)」という構成でした。

最終日は、まず複数のテーマに分かれてグループ・ディスカッションが行われ、続くセッションⅢ「地域医療における腫瘍循環器ケア(小児がんサバイバー、成人がん患者)」では前立腺がん、肺がん、アミロイドーシスを含めた幅広い領域がカバーされました。

コース全体を通じ、実際に学際領域の診療ガイドラインを作成された先生方が、豊富な臨床経験と確固たる理論に基づいて、CTRCDは発症してから対応するのではなく、がん治療前・治療中・治療後の各段階においてハイリスク治療とハイリスク患者を同定することが重要であることを何度も強調されていたことが印象的でした。

コース・ディレクターの一人であるAna Barac博士によれば、ACC腫瘍循環器部会は全米各州に加え、世界各国の実情に合わせた連携を進めつつあるとのことで、日本腫瘍循環器学会への期待も示される、大変有意義な意見交換の機会となりました。(写真)。



Dr. Ana Barac のtwitter (@AnaBaracCardio) より

執筆：佐瀬一洋

順天堂大学大学院医学研究科臨床薬理学

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

Phone : 03-3813-3111 (ex3430)

Email : sase@juntendo.ac.jp